



災害救助犬をご存知ですか

西原 幹夫

災害救助犬は地震などの大規模災害が発生した時、倒壊建物内で身動きが取れないで救助を求めている被災者や山野で迷子になり救助を求めている遭難者を、優れた嗅覚を使い捜し出す犬のことです。警察犬と違うところは、警察犬は捜すべき人間の原臭が必要です。捜す対象者の臭いを記憶させ臭いを辿って捜します。災害救助犬は、人間が災害、事故等で普段とは違う状況下に於いて発する特定の臭いを感じし、その発生元へ辿りつきます。災害救助犬は不特定の生存する要救助者を捜す事が出来ます。

キーワード：民間人ハンドラー、捜索開始時間、実践訓練

1. 世界の災害救助犬は民間人の手で

災害救助犬発祥の地スイスには多数の災害 NGO (非政府組織) があり、その中にスイス災害救助犬協会があります。災害救助犬として登録されている犬は、民間人の飼い主であるハンドラー (犬の指導手) 所有の飼い犬です。飼育費や訓練費は個人が全て担っています。米国に於いても殆どの災害救助犬は民間人の飼い犬です。全米各地にある其々の救助犬活動団体に所属し、多くの犬が休日に飼い主と共に訓練を重ねています。民間人の飼い犬が多いのは、災害救助犬の捜索作業にはハンドラーと犬との絶大な信頼関係が必要だからです。ハンドラーは危険な場所へ犬を送りだします。犬は嬉々として捜索作業をこなしてハンドラーに応えます。飼い主は、日頃より生活を共にしている犬のボディ・ランゲージを知り尽くしています。災害救助犬は要救助者の家族の為に働くものではありません。ハンド

ラーに褒められたい一心で危険な作業も克服してゆきます。人と犬は主従関係を越えたパートナーなのです。世界の殆どの災害救助犬は緊急時に即出動が出来るハンドラー (飼主) とペアーを組んでいます (写真—1, 2)。

日本国内ではどうでしょうか。災害救助犬が国内で、初めてマスコミに登場したのは、スイスから支援に駆けつけた災害救助犬チームが活躍した阪神淡路大震災の時です。関係官庁は無論、一般の方々 (私もその一人) は、倒壊建物から生存者を捜し出す訓練をされた犬がいる事すら知りませんでした。阪神淡路大震災の後に、一部の警察犬訓練所の関係者や民間人の訓練愛好家が集まり、スイスの災害救助犬団体に習い、各地で民間人の手で飼い犬を災害救助犬に育ててきました。あれから 10 年余りが過ぎ、幾つかの NPO 法人組織の災害救助犬活動団体が存在しています。其中で NPO 法人日本救助犬協会は、首都圏を中心に東京



写真—1 ハンドラーが犬を放つ、犬は既に捜すべき方向を見ている



写真—2 瓦礫内より生存者の臭いを確定、場所を吠えて教える

消防庁をはじめ多くの自治体と出動協定を結び、いざと云う時に備えています。勿論、現在30頭の登録災害救助犬は全て会員（民間人）の飼い犬です。飼育費、訓練費、装備に至るまで個々の会員が担っています。

2. 災害救助犬に対する認識と理解

(1) 高いスイス政府の認識と理解

スイスではいざ出動となれば、政府がバックアップして航空機の手配から出動先への現地手配もしています。先般、当協会はスイスのKチーム（災害救助犬の派遣チーム）の訓練リーダーである、リンダ・ホルスベルグ女史を迎えて、セミナーと実践訓練指導を受けました。彼女は、都庁の展望室から見渡して、「東京で大震災が発生した時は、スイス政府は5チーム（1チーム3頭の救助犬）を24時間以内に派遣するでしょう」と語りました。それ程にスイス政府は、災害救助犬に認識と理解を示しています。

(2) 米国では、9.11同時多発テロ事件で活躍

米国に於いても何百とある民間の救助犬団体は、各地のSAR（救助活動組織）やFEMA（連邦緊急事態管理庁）に優秀な災害救助犬を多頭登録し如何なる事態にも備えています。9.11の同時多発テロ事件の際には、全米各地から駆けつけた、350頭余りの災害救助犬、探査捜索犬が活躍しました。ブッシュ大統領は、救助活動現場で犬の頭を撫でて、代表犬2頭を「GOOD DOG」として表彰しました。欧米人の作業犬に対する認識と理解の深さが報道されました。

(3) 日本では

日本国内ではまだ、災害救助犬の作業犬としての実力、実践的な能力の高さが、関係官庁やレスキュー関係者にさえ正確な認識と理解がされていません。加えてハンドラーが民間人である事が、官庁関係者から出動要請を出しにくい大きなハードルと成っているようです。災害救助犬団体は、今後も各地の防災訓練会や実践的な救助合同訓練会への参加を重ね、多くのレスキュー隊の関係者から認識と理解を受けられる事が、先決となっています。

3. 人命救助は時間との戦い

(1) 衆知となった阪神淡路大震災では

国内で災害救助犬を有名にしたのは、阪神淡路大震災の支援に来たスイス災害救助犬チームの神戸への到

着が遅れた事を伝えた報道です。地震発生約1時間後には、スイス大使館より政府へ人命救助支援の申し入れがされています。しかし、災害救助犬の存在を知らない兵庫県は訳が分らぬまま「受け入れる体制にない」と返答し、まず24時間が遅れました。翌日、国土庁は消防庁と相談の結果、スイス政府の支援要請を改めて受けたのです。当時は災害救助犬の認知度が低く、現地が海外からの災害救助犬部隊を受け入れる体制が無かったのが、大きく遅れた原因なのです。動物検疫で足止めにされたと言うのは間違いです。スイス災害救助犬チームが現地に入ったのは地震発生から60時間以上も過ぎてからでした。残念ながら、ご遺体は発見出来ても生存者の発見には至りませんでした。

(2) 運命を分ける48時間以内

人命救助活動は時間との戦いです。通常レスキュー関係者は、倒壊建物内に閉じ込められた人間が生存する可能性時間を72時間としています。発見から救出するのに24時間が必要とすれば、災害救助犬が行方不明者の捜索を開始する時間は、災害遭難事故発生から48時間以内となります。災害救助犬は使用する条件さえ整えば大きな成果を上げます。条件とは、災害遭難事故発生から48時間以内に災害救助犬が行方不明者の捜索を開始できることです。これは国内に於いては、非常に厳しい条件なのです。何故ならば我々は、民間人のボランティア活動団体なのです。果たして、災害現場や遭難事故現場の担当所轄署が48時間以内に災害救助犬による捜索作業の開始を許可するでしょうか。

(3) 栃木県で遭難児童救助

一昨年6月21日は、災害救助犬の能力の高さが全国に認知された日でした。当協会の災害救助犬チームが出動、栃木県の山中で課外活動中に迷子になった小6男児を災害救助犬が捜索発見し、人命救助に貢献したのです。これは国内に於いて初めての事だと思います。何故でしょうか？ どうしてこれまでは、行方不明遭難者を無事に発見出来なかったのでしょうか？ それは災害救助犬の捜索開始時間に問題がありました。当協会の過去数回の遭難捜索出動活動に於いては要請依頼が遅すぎたのです。栃木県の場合は、当協会が発生9時間後の午後8時に栃木県警へ捜索のお手伝いを申し出ています。これに対して栃木県警矢板署は直ちに申し出を受け、翌日の21日午前8時30分から、県警・消防隊による250名体制の一斉捜索が始まる前に、災害救助犬チームに捜索を任せました。更に救助犬チームを、男児が行方不明になった山頂付近まで

先導案内しました。これにより午前6時30分より災害救助犬5頭、隊員7名は搜索を開始、7時50分には反応を示したサンドラ号を放ちました。サンドラ号の後を追うこと30分、遊歩道から谷を挟んだ向かい側急斜面で、疲れ果ててずぶ濡れになった男児を発見し無事を確認できました。行方不明になった場所から1.7 km、発生から20時間後の事でした。この例が成功した要因は、栃木県警矢板署が災害救助犬に理解を示し、災害救助犬チームの早期搜索体制を整えて頂いた事に尽きるのです。夜中に大雨が降り、関係者の間では最悪の事態も考えていたようです。やはり災害救助犬による搜索も時間との戦いです。遭難救助対策本部の所轄署関係者の間に警察犬とは違う形の搜索犬として、協力要請する認識が広がってゆけば次の朗報を生む事になるでしょう。

4. 訓練場所の確保

(1) 実践に役立つ訓練場所が必要

基本的な服従と搜索訓練が出来て、其々の災害救助犬認定試験に合格すると、救助犬団体所属の災害救助犬として協定先の東京消防庁に報告されます。其中に実際の瓦礫現場で問題なく搜索作業を出来る犬が何頭いるか疑問です。どの団体の搜索試験会場も所詮は作り物の瓦礫や倒壊家屋なのです。立派な訓練場を作り瓦礫搜索訓練をしても、犬は3回で建物や瓦礫の構造を覚えてしまうのです。犬は認定試験に合格して実際の現場で其の能力を発揮するには、より困難な状況設定の訓練を積み重ねる必要があります。要救助者役をより困難な場所から発見すれば、犬はその経験で更に優秀に成ってゆきます。初めての鉄筋コンクリート建物解体現場で平気で搜索作業が出来る犬は稀で、よほど素質があるか無鉄砲な犬でしょう。殆どの犬は訓練場でシーソーや不安定足場が渡れても、鉄筋が飛び出している瓦礫を歩く事すら出来ないのです。克服するには経験しかないのです。如何なる状況の現場も犬に経験させておけば、本番の時に出来るのです。特に都市部で大型地震災害を想定した瓦礫搜索犬を目指す犬達には、倒壊建物現場での搜索訓練の実施が必要です。大型地震発生に備えて色々な設定の経験訓練をしておかなくてはなりません。一定レベル以上の犬を、毎回、同じ訓練場で設定を変えずに搜索訓練を続けられれば1000 m³の瓦礫内に隠れた3名の要救助者役を5分以内に捜し出すでしょう。実はこれが悩みの種です。ハンドラーは自分の犬が優秀に成ったと錯誤してしまうからです。本来は同じ設定場所を実践的な搜索訓練

には使うべきではないのです。狭い訓練場で数回目の搜索訓練を実施するには、重機を使い瓦礫を掻き回すか、難易度を上げて要救助者役を更に危険な場所に隠さなくてはなりません。訓練とはいえ要救助者役の安全を考えると難しい事です。

(2) 進んでいる欧米の訓練施設

視察したスイスでは、軍と消防が訓練に使用している広大な敷地に、全半壊建物施設があります(写真—3)。休日の早朝にはゲート前に、各地から犬を乗せた車が100台程集まってくる。其々の災害救助犬チームやグループが犬を連れて入場し、各々瓦礫建物に散ってゆきます。道の両側にはあらゆる想定で作られた倒壊建物や半壊建物が並びます。その数は100棟を超すと思われます。其々に安全性が考慮され落下しそうなレンガ1枚に至るまでコンクリートで固められています。この施設で災害救助犬と民間人ハンドラーは多くの経験を積む事になります。実践訓練場の確保に窮する、我々とすれば、誠に羨ましい限りです。アメリカのカリフォルニア州で訓練に幾度も付き合ってくれた災害救助犬団体MBSD (Monterey Bay Search Dog) の場合は少し事情が異なります。何頭かがFEMA (連邦緊急事態管理庁) の災害救助犬として試験に合格し登録をされていました。登録犬とそのハンドラーはNASA (航空宇宙局) の基地内で年数回行われる連邦緊急事態訓練に民間人であっても、災害救助犬の専門家として瓦礫搜索救出部門に参加が出来ます。日頃の訓練は、地元のMonterey Bay市から広いゴミ収集処理場を休日に利用する許可を受けています。大まかに分別されたゴミの山を訓練場として使用していました(写真—4)。多少臭いはあるが、毎週変化に富んだ搜索訓練が行えるのが利点だと話して



写真—3 スイス国軍の訓練施設 全半壊建物が並ぶ



写真一4 Monterey Bay ゴミ集積処理場 木製パレットの山

いました。

(3) 東京都からの解体現場の提供

東京都は、平成 17 年 4 月に災害救助犬の訓練に都施設の解体工事現場を活用しようと、東京消防庁と出動協定を結んでいる救助犬 4 団体と訓練現場提供の協定を結びました。これにより災害救助犬がより一層の実験的経験を積み重ねる事が出来るようになりまし

た。東京都や自治体からの解体現場の提供は非常に有り難い事です。我々は、いざと云う時の為に都市型災害を想定した瓦礫搜索を多くの犬達に経験させて備えなくては成りません。出来れば民間企業からも解体予定の建物や資材置き場等を実験搜索訓練場として、短期

間限定で提供をお願いしたいところです。

5. 今後の活動

当協会は、平成 8 年 6 月 1 日「日本災害救助犬協会」として設立されました。その後、犬による幅広い社会貢献をも念頭に入れ、災害救助犬活動と老人ホーム等への施設訪問犬活動を 2 本の柱とし「日本救助犬協会」に組織変更、平成 11 年 10 月 NPO 法人として認証されています。国内の災害救助犬育成活動は啓蒙活動も進み、今では災害救助犬の名称は広く知られるようになりました。この 10 年余りで救助犬関係者の情熱と努力により犬は海外の災害救助犬レベルに達しております。地震大国日本としては、まだまだ災害救助犬の頭数を増やさなくては成りません。都市型災害や土砂災害など国内特有の災害に対応出来る災害救助犬の育成に邁進してゆきたいと考えています。今後とも各方面での皆様のご支援とご協力をお願いする次第です。

JICMA

【筆者紹介】

西原 幹夫 (にしはら みきお)
NPO 法人 日本救助犬協会
災害救助犬出動部長



大口徑岩盤削孔工法の積算

——平成 18 年度版——

■内 容

平成 18 年度版の構成項目は以下のとおりです。

- (1) 適用範囲
- (2) 工法の概要
- (3) 岩盤用アースオーガ掘削工法の標準積算
- (4) ロータリー掘削工法の標準積算
- (5) パーカッション掘削工法の標準積算
- (6) ケーシング回転掘削工法の標準積算
- (7) 建設機械等損料表

● A4 版 / 約 250 頁 (カラー写真入り)

● 定 価

非会員：5,880 円 (本体 5,600 円)

会 員：5,000 円 (本体 4,762 円)

※学校及び官公庁関係者は会員扱いとさせていただきます。

※送料は会員・非会員とも

沖縄県以外 450 円

沖縄県 340 円 (但し県内に限る)

社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 (機械振興会館)

Tel. 03 (3433) 1501 Fax. 03 (3432) 0289 <http://www.jcmanet.or.jp>